

日本の学校では、なぜ水泳の学習をするの？

2023.5.29 校長 西谷 秀幸

（廊下での過ごし方の話）



今日の朝会は「プール開き朝会」です。早いもので、今週の木曜日から6月になり、来週の月曜日からは、水泳の学習が始まります。

本当だったら、来週の月曜日に「プール開き朝会」をするのが一番良いのですが、実は来週の月曜日からは、6年生と一緒に日光移動教室に行くので全員がそろそろ今日、「プール開き朝会」を行うことにしました。

さて、ドラマや映画などで、プール付きの家で泳いだりする場面が出てきたとき、いいなあ…、うらやましいなあ…なんて思ったことはありませんか。

日本には、ほとんどの学校にもプールがあり、水泳の学習があります。しかし、外国ではそれはとても珍しいことで、例えば、アメリカや韓国、中国などの国には、小学校や中学校にプールがなく、水泳の学習もない学校が多いのだそうです。だから、私たちがプール付きの家をうらやましいと思うように、実は、外国の人たちはプールがある日本の学校がうらやましいと思っているのだそうです。

では、なぜ、日本の学校では水泳の学習をするのでしょうか。

日本という国は、まわりを海で囲まれている島国で、川も多いので、昔から「水練」という、昔の泳ぎ方を学習をしていました。しかし、69年前に船の衝突事故で100人以上の子供が亡くなってしまい、さらに、海で「水練」をしているときに、子供が溺れて亡くなる事故がたくさんあったので、全国の学校でプールが作られるようになったのです。

3年生以上の方は、覚えていますか。板橋区でも、一昨年の4月に、区内の小学校2年生が新河岸川という川で溺れて亡くなってしまったという悲しい事故がありましたね。

もしかしたら、皆さんの中には、「泳げないから」とか「恥ずかしいから」…などと思って、水泳の学習はしたくないなあ…という人がいるかもしれません。でも、学校での水泳の学習で一番大事なことは、「速く泳ぐ」とか「長い距離を泳ぐ」とかではなく、「水に慣れて、水と親しむ」こと、つまり「水と友達になる」ことなのです。ですから、苦手な人も「水と友達になる」「水と仲良くなる」ことをめあてにして、安全で楽しい水泳の学習にしましょう。

4年生以上の方は覚えていると思いますが、新型コロナウイルスの影響で、3年前は水泳の学習を学校で1時間もすることができず、2年前も1時間しかできませんでした。去年は何回かできましたが、2クラスずつで行いました。

コロナが5類になった今年は、コロナ前のように、各学年、4クラス全員でプールに入ることができ、去年までできなかったこともできるようになります。しかし、校庭や体育館での体育と違って、水泳はルールをしっかり守らないと死んでしまうことがあります。

このあと、三角先生から水泳の学習について、大事なお話があります。「水と友達」になれるように、しっかり聞き、ルールを必ず守って、楽しい学習にしましょう。

これで、朝会のお話を終わります。

（裏面に「先生方へ」があります）

〈先生方へ〉

先日は、1回目の校内研究、お疲れさまでした。さすが「教師道場のリーダー」であり研究主任である小池先生の授業、外部講師に引けを取らない享平先生の指導講評、そして、何よりも皆さんの白熱した議論に今年も校内研究を通した授業力向上に大きな期待を感じました。実は、私自身、校内研究で体育を行うのは初めてのことで、自分の勉強不足を感じるとともに、共に学びたい気持ちが多々あります。今年度も事前授業を含めてお互いに学び合い、高め合っていけるよう、よろしくお願いいたします。

また、全校でのサポート体制についてもありがとうございます。次週もお願いすることになりますが、「どの子も我が子」「どのクラスも我がクラスの子」として、よろしくお願いいたします。

さて、来週の5日（月）から日光移動教室に行く関係で、1週間早い「プール開き朝会」となりますが、来週から水泳指導が始まりますので、安全第一、「水に慣れ親しむ」「水と友達になる」ことを第一に御指導をよろしくお願いいたします。

【資料】学校にプールは世界的にまれな話？日本のプールに外国の賞賛の嵐？日本が競泳大国なのは学校プールのおかげ!? ~海外ではそもそも水泳の授業がない？見直せ日本の素晴らしい文化！~

江戸時代から水練（水泳）の授業があった！！

学校にプールがあるというのは、私たち日本人からすればとても普通のことでしょう。ところが、外国人からすると、小中学校、高等学校にプールがあるのはとても不思議なこと…というより、とてもうらやましい、アメイジングなことのようにです。実際のところ日本の学校にはどれくらいプールが併設されているのでしょうか？文部科学省によれば、小学校で87・8%、中学校で72・2%もの学校にプールが設置されています（ともに2008年度）。これは、他の国々ではちょっと見られない数字のようです。

映画やドラマを見ていると、アメリカの豪邸にはプールがあり、くつろぐ光景をイメージしがちですが、学校にプールがある国はほとんどありません。こうした日本の「プール付き学校」をインターネットなどで目にした海外の反応は「驚き！」「クール！」「うらやましい！」と賞賛一色。海外では、そもそも水泳の授業がないところも多く、日本の学校にプールがあることは信じがたい光景なのです。

四方を海に囲まれた島国である日本では、江戸時代から水泳の教練（水練）があったといわれています。最初に水練場をつくったのは、会津藩（現在の福島県）の藩校・日新館と長州藩（現在の山口県）の藩校・明倫館といわれ、17世紀のこと。こうした学び舎で、武士の大事なたしなみとして、剣術や学問だけでなく、水泳も教えていたわけです。そして水練は、海ばかりではなく河川も多い日本ならではの重要な軍事教練として受け継がれることになりました。

戦後の日本人に勇気を与えた水泳

幕末から明治、大正時代と教育の現場では水泳の授業が盛んに行われ、昭和時代になるとほとんどの旧制高等学校、師範学校にプールが設置されたといわれています。オリンピックなどでも毎回多くのメダルが期待される水泳・日本ですが、その輝かしい歴史は、何といても1947年、戦後の日本国民を熱狂させたスイマー、古橋廣之進の功績をおいて語ることはできません。

当時の日本は、敗戦国としてオリンピック出場が認められませんでした。古橋選手は、日本選手権自由形決勝で世界記録を打ち破ったのです。当時、日本は世界オリンピック協会からも除名されていたため、その記録は公式認定されませんでした。のちに古橋選手は、このときの悔しさからか全米選手権で世界記録を樹立。「フジヤマのトビウオ」と呼ばれ、世界中から賞賛されたのです。

こうして戦後の水泳熱が高まるなか、1952年に相次いだ小中学生の集団水難事故が、水泳教育の必要性に拍車をかけたともいわれています。全国の小中学校ではプール設置が急ピッチに進み、1995年の学習指導要綱には、水泳を授業で行うことが明記されました。そして現在、外国人の目には、驚きとうらやましさに満ちあふれるプール付きの学校が常識となったのです。

日本では、子どもの習い事でも水泳は上位に入っていて、それにともない幼稚園、保育園でもプールが設置されているところが増えていきました。北海道、青森県など一部の寒冷地域では、現在もプールの設置率が低い地域もありますが、そういった地域にはしっかりと公設の温水プールがあったりします。わが国はやはり、水泳大好き国民が住む、海に囲まれた島国なのです。

https://www.kk-bestsellers.com/articles/-/3707/#google_vignette